古民家再生 憩いの場に

地域おこし隊 田中さん整備

住民ら解体体験

伊佐・大口牛尾

伊佐市大口牛尾で9月28、29日、古民家を再生してゲストハウスや交流の場をつくるイベントがあり、計60人が参加した。古民家は同市地域おこし協力隊の田中久美子さん(40)がDIYで整備を進める築120年超の空き家。初日の見学会に続き、2日目は解体のワークショップがあった。参加者はハンマーやバールを思いきり振るい、楽しそうに壁や天井を壊していた。

田中さんは秋田県能代市出身。2023年1月に隊員になり、夫・芳和さん(48)の母の実家がある伊佐市大口青木に住んでいる。同年8月、大口牛尾の空き家を知って一目ぼれした。母屋は約250平方㍍、納屋や庭を含めた敷地面積は約660平方㍍と広い。地域にある牛尾鉱山の事務所や、戦時中は日本軍の宿舎として使われ、憩いの場や避難所、子どもたちの遊び場にもなっていたという。

「本来の役割を取り戻し、伊佐の暮らしをテーマにした宿泊施設にしよう」と夫婦でリフォームに着手した。9月29日のワークショップには県内外から33人が訪れた。空き家再生の先進事例を学んだ後、解体に着手。ほこりにまみれながら、2時間半かけて応接間の内壁や天井をはがした。地域住民は駐車場を貸したほか、食事作りで手伝った。

見学会に参加した近くの中原康展さん(76)は「子どもの頃、庭で野球や缶けりをしたり、雨の日は広い部屋の中で相撲を取ったりして遊んでいた。地域に開放されるのはうれしい」と期待した。今後も参加型の改修作業を続ける予定で、田中さんは「皆さんのおかげで作業が想定以上にはかどった。人の温かさが感じられる施設にしたい」と話した。(勝目博之)



古民家の応接間の壁や天井をはがす参加者 =9月29日、伊佐市大口牛尾

出水・湯川内温泉かじか荘 秘湯復活へ作業開始



敷地に堆積した土砂などを除去する業者 =9月30日、出水市武本の湯川内温泉かじか荘

8月末の台風10号で甚大な被害を受けた出水市武本の湯川内温泉かじか荘で9月30日、復旧作業が始まった。初日は地元の建設業者が一帯に堆積した土砂や石などを取り除いた。

同温泉は約260年前に発見されたとされ、温泉が浴槽の底から湧き出る「足元湧出」が特徴。昨年9月に閉めた前所有者から、一般社団法人純温泉協会(大阪、山口貴史代表理事(53))が今年7月に購入した。だが翌月の台風で、浴室や脱衣所に無数の石や土砂、川の水が流れ込んだ。

山口さんによると、復旧作業には多額な費用がかかるため、協会は復興支援金として寄付(1口1万円)を募っている。協会のホームページで詳細を案内中。ボランティア募集なども今後告知する。

9月30日、作業を見守った山口さんは「被害を受けて精神的なダメージは続いているが、ようやく復旧に向けて動き出した。温泉を待ち望むファンのためにも、一日でも早く復活させたい」と語った。(清水裕貴)

皇子原公園で謎解きゲーム

5日から 高原町の魅力PR

宮崎県高原町の奥霧島皇子原公園キャンプ場は、回遊型なぞ解きゲーム「タカハルナゾトキミステリー～奪われた時代とハジマリの皇子」を5日から始める。天孫降臨や神武天皇にまつわる神話や史跡が数多く残る同公園や町の魅力について、ゲームを通してアピールするのが狙い。

キャンプ場管理事務所でなぞ解きキット(500円)を購入し、冊子やLINE(ライン)などの指示に従いながら敷地内を巡ってなぞ解きを楽しむ。対象年齢は9歳以上。全てのポイントでなぞ解きをクリアすれば、ゴーカート乗車券(500円)や釣り堀200円割引券がもらえる。

キャンプ場を管理運営する会社「奥霧島温泉郷」が自主事業として企画。町企業版関係人口づくり推進協議会の招きで2月に町を訪れたFUN SPIRIT S社(東京都)傘下のなぞ解きクリエーター集団「KAGENAZO」にストーリー制作を依頼した。

奥霧島温泉郷の内村雅樹代表(47)は「なぞ解きゲームは都市部では20～30代に人気がある。ファミリーや高齢者以外の来場者を増やしていきたい」と導入の狙いを述べた。同社=0984(42)3393。(深野修司)



冊子とLINEの案内に従いながら、クリアを目指すなぞ解きゲーム =宮崎県高原町蒲牟田

記者の目

さつま支局 山田天真

温かなまなざし

「あったー」。地元の子どもたちは支局前の段ボール箱をのぞいて菓子を見つけると、うれしそうに袋に詰めて次の家へ向かった。さつま町の轟原地区で開かれた十五夜行事「お月見どろぼう」。子どもたちが夜間に家々を巡り、軒先の供え物(菓子)をこっそりもらう習わしだ。

今回初めて用意した。取りに来てもらえるか不安もあったが、喜ぶ様子を見られてほっとした。別の高齢者宅でも、住人が家の中から軒先に温かなまなざしを向ける姿を見かけた。袋いっぱいのお菓子を抱えて誇らしげに家路に就く子どもたちがほほ笑ましかった。

昨年からは、コロナ禍で中止が続いていた十五夜行事が町内各地で再開している。中津川の武白猿公民館ではウナギのつかみ取りやラムネの早飲み競争があり、集落民約40人でにぎわった。

しかし、主役となる小中学生はわずか4人。少子高齢化が進み、準備にいそしむ男性は「いずれ地域を離れるかもしれないが、この場所に住んでいたという思い出を残してあげたい」と話した。その熱意に頭が下がる。

時代とともに行事内容が少しずつ変わっても、子どもたちの中にはこれらの体験がしっかりと刻まれていると思う。地域で子どもたちを支えて見守る行事と、その思いは引き継がれてほしい。

2024・10・2(水)

地域総合面投稿案内 「ありがとう」「はい元気」「子供のうた」などの投稿方法は右のQRコードで確認できます。各コーナー専用のフォームから投稿もできます。

みなみネット kagoshima local network

総局支局電話番号

身近なニュース、催し物など情報をお寄せください

薩摩川内 0996 23-2009 Fax 25-0778
奄美(徳之島) 0997 52-0432 Fax 52-2947
指宿 0993 22-3050 Fax 24-4463
枕崎 0993 72-0245 Fax 73-1930
南さつま 0993 52-2055 Fax 52-7712
日置 099 273-2610 Fax 273-1187
阿久根 0996 72-0126 Fax 73-3805
出水 0996 62-0057 Fax 63-2852
さつま 0996 53-0025 Fax 53-3374

ハンヤ踊りや花火にぎわう

指宿温泉祭

湯の恵みに感謝する指宿温泉祭が9月28、29の両日、指宿市のセントラルパーク指宿一帯であった。北海道千歳市との姉妹都市盟約締結30周年を記念した「YOSAKOIソーラン演舞」や指宿ハンヤ踊り、花火大会などがあり、多くの人でにぎわった=写真。

28日の指宿ハンヤ踊りには、54団体約2500人が参加。企業やサークルごとに個性豊かな衣装に身を包み、踊りながら「オクラにそら豆、日本一」のかけ声を響かせた。大賞に選ばれた山川小PTAの西之原健会長(39)は「山川地区の4校が統合して初めて参加した。踊った66人の心が一つになった」と喜んだ。



27日 曽木の滝ウオーキング

伊佐、参加者募集

伊佐市観光ガイドの会「伊佐の風」は、10月27日午前9時～正午に開く「秋の曽木の滝ウオーキング」の参加者を募集している。ガイドの案内でモミジを見ながら、曽木の滝公園を出発し約7㌔のコースを歩く。

公園から曽木発電所遺構や新曽木大橋、川内川分水路などを巡る。終了後には焼酎などが当たるじゃんけん大会や抽選もある。南清喜会長(75)は「公園の約700本のモミジが出迎える。滝周辺の豊かな自然を楽しんで」と呼びかける。

千円(保険料込み)。先着40人で、参加希望者は曽木の滝観光案内所=0995(28)2600=に電話で申し込む。月曜休み、午前10時～午後4時。

異動

◆薩摩川内市 (1日)
消防局東部消防署副署長兼第2部隊長兼予防査察係長(消防局東部消防署副署長兼第2部隊長)山下道雄▽派遣=原子力規制庁(消防局東部消防署予防査察係長)川添修平

29日は、湯権現神社で神事をした後、おはやしとみこしが会場周辺を巡った。ダンスや和太鼓演奏などのステージイベントもあり、夜は約5000発の花火が温泉街の夜空を彩った。(常深さゆり)

卒業生、Gゴルフで結束

来年100周年・加世田常潤高

本番の式典成功へ企画

校舎前でグラウンドゴルフの熱戦を繰り広げる参加者 =南さつま市の加世田常潤高校



2025年度に創立100周年を迎える南さつま市の加世田常潤高校は同窓会と連携し、来年9月27日に記念式典を開催する。1年前に近い9月21日、プレ100周年グラウンドゴルフ大会を同校前庭で開き約50人が参加。本番の成功に向け結束を高めた。

式典当日は前庭で卒業生らによる物産販売を企画しており、当日の日差しの強さなどを体感しようと開いた。教職員11人をはじめ本坊輝雄同窓会長ら卒業生が熱戦。1万円の寄付で5合瓶の記念焼酎3本を返礼することも報告された。

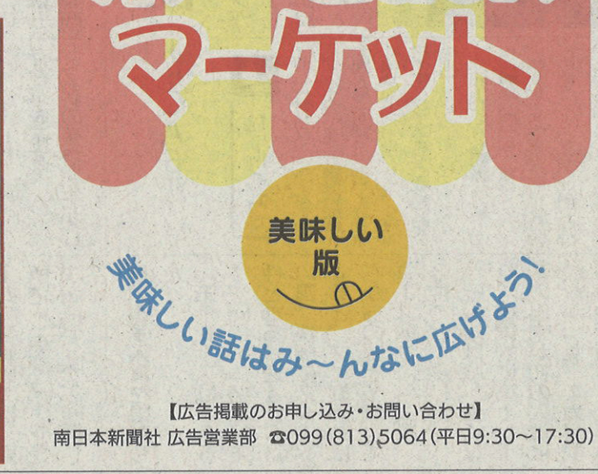
同窓会の石原哲郎幹事長(71)は「魅力あるイベントを企画している。生徒数は減っているが100周年を機に盛り上げたい」と話した。(犬塚政志)

楽ラク×ラクLuckマーケット 美味しい版 美味しい話はみ～んなに広げよう!

【広告掲載のお申し込み・お問い合わせ】南日本新聞社 広告営業部 ☎099(813)5064(平日9:30～17:30)









謹んでおくやみ申し上げます 南日本新聞社

父 飯尾一成は、十月一日午前四時二十五分、家族の見守るなかで九十八歳の天寿を全うしました。ここに生前のご厚情を深謝し、謹んでお知らせいたします。
なお通夜・葬儀告別式は、左記の通り仏式にて行います。
一、日時 通夜 十月二日 午後六時～
葬儀告別式 十月三日 正午～
一、場所 総合葬祭 ルミエールながしま
出水郡長島町平尾二六六一二
電話〇九九六(88)二九〇〇
令和六年十月二日
出水郡長島町城川内八八番地
喪主長男 飯尾一登
長女 福永恵子
二男 飯尾市子
二女 橋口延子
貴輝

本会会員 飯尾一成殿は、永年地域医療に尽力してこられましたが、十月一日永眠されました。ここに生前のご厚誼を感謝し謹んでお知らせいたします。
令和六年十月二日
鹿児島県医師会長 牧角寛郎
出水郡医師会会長 來仙隆洋